

# ILLUSION LIVE 2009

人間科学科3年 山村 佳那

2009年度オープンキャンパス(7/19、8/2、8/22、8/23)と神大フェスタ(10/31、11/1)にて、視覚と触覚をテーマとした実験を通じて、感覚・知覚心理学をたくさんの方々と地域の方々に親しんでもらうため、「ILLUSION LIVE in JINDAI」を開催しました。このイベントは2006年度に人間科学部が設立された年から始まり、オープンキャンパス、神大フェスタには毎年欠かさず参加しています。初めは新設学部のアピールという狙いもありましたが、設立され4年の時が経ち、今では人間科学部の看板イベントとなりました。

私が大学1年生の時、初めてイリュージョンライブのスタッフとして参加し、今年で3年目となりました。その時と比べて、オープンキャンパスに訪れる学生は高校3年生よりも高校

1、2年生の割合が非常に高くなってきています。私立高校では夏休みの宿題としてオープンキャンパスに行ってきた感想文を出す学校が増えてきているそうです。そんな高校生の宿題にうってつけなのもイリュージョンライブの利点です。



では実際に私たちがどのような活動をしているのか、ブースの一部を簡単に紹介したいと思います。大型スクリーンで運動や色の残像を観察する「明るさと色」や「変化盲」逆さまの世界が体感できる「逆さまメガネ」など従来から親しまれてきた実験の他に、今年はオープンキャンパス、神大フェスタを通して5つのブースを新たに設置しました。

大きさの恒常性に関する「トランプ錯視」、温冷錯覚に関わる「温熱効果」、奥行き錯視の「エイムズの回転窓」、奥行き反転錯視の「回転する仮面」、何かに注意を向けていると、変なことが起きても気が付かない現象である「非注意による見落とし」の5つを新設しました。

この中で「温熱効果」と「非注意による見落とし」について詳しく説明したいと思います。まず「温熱効果」について。テーブルに3つの

発砲スチロールでできた箱を置きます。真ん中の箱には常温の水を入れ、正面から見て右側の箱に冷たい水を入れ、左側に温かい水を入れます。体験される方にはまず、真ん中の箱に手を入れてもらい、常温の水の温度を確かめてもらいます。その後、両手を左右の箱にそれぞれ入れてもらい時間を計ります。1分程時間が経った時点で箱から手を出してもらい、次に真ん中の箱に手を入れてもらいます。すると温かい水に入れていた手は常温を冷たく感じるといように、今まで浸けていた水の温度と反対の感覚を体験することができます。この体験は順応によるものです。

次に「非注意による見落とし」です。このブースでは、白いシャツを着た人が3名と、黒いシャツを着た人3名が、それぞれのチームでバスケットボールをパスしている動画を見てもらい、白いチームが何回パスをしたのかカウントしてもらいます。動画が始まって30秒くらいすると、画面の右端から大きなクマのぬいぐるみを持った人物が現れ、画面の真ん中で立ち止まります。このとき、クマのぬいぐるみをグルグル回して自分の存在をアピールします。そんなことが起これば、誰でも気づくと思うかもしれませんが。しかし、パスの回数を数えることに集

中していると、このような奇妙な出来事でも見落としてしまう人が続出します。今回のイリュージョンライブでは、この映像を見た人の約90%がクマのぬいぐるみを持った人物に気がつきませんでした。後で説明を受けた人は、自分が気づかなかったことに驚いた人も多く、心の働きの不思議を体験してもらえたと思います。



人間科学部の学生が中心となって企画・運営を行っているイリュージョンライブでは、学部生なら誰でもスタッフとして参加できるため、「心理発達コース」の学生だけではなく、「人間社会コース」「スポーツ健康コース」の学生も参加し活動しています。

人間科学部では2年次から3コースに分かれ

るため、まだ入学したてで自分は人間学科のどんな分野に属するか分からない大学1年生は、先輩から各コースの情報を得ることができません。人間関係、人の良さはどの団体にも負けない自信があります。私が1年生の頃はスタッフの人員が少なく、ブース説明で分からないことがあっても、自分で調べるしかありませんでした。けれども年次を重ねることにより、自然と先輩から先輩へ教える積極的な姿勢が見え始めました。また説明を教える他に、改善点があれば提案し話し合いも行っています。

今年、イリュージョンライブを統括している和氣洋美先生直々の勉強会が行われました。今まで行ってきた説明の知識を再確認すると同時に、自分が担当するブース以外の説明も学び、一人ひとりがどのブースの説明もできるように知識や技術の向上を図りました。

自らが学ぼうとする積極性を育成するとともに、お互いに支えあい、相手を気遣うことをも知ることができるとは、イリュージョンライブの魅力のひとつだと思います。

2006年当時、大学1年生であった先輩方が今年で4年となります。当初1学年の学生と先生、教務補助とでゼロからスタートしたイリュージョンライブが、今では4学年率いる立派

な組織となりました。

これからも先輩方が築いてきた人間科学部の誇りを守り続け、後の世代に意思を受け継いでいきたいです。そして「人間科学部って面白い!」「来年もイリキュージョンライブに来たい!」と思ってもらえるように、今後も現状に満足せず、今あるブースをもっと楽しんでもらえるように工夫を凝らし、さらに新たなブースを取り入れ、成長を留めることなく、日々進歩を遂げ飛躍していきたいです。これが、私のイリキュージョンライブに対する想いです。

この報告書により、少しでもイリキュージョンライブに興味をお持ちになりましたら、ぜひ一度足をお運びください。そして、心と体、人間の不思議―イリキュージョン―を体験していただく。

最後になりましたが、後援いただいた人文学会に厚く御礼申し上げます。

